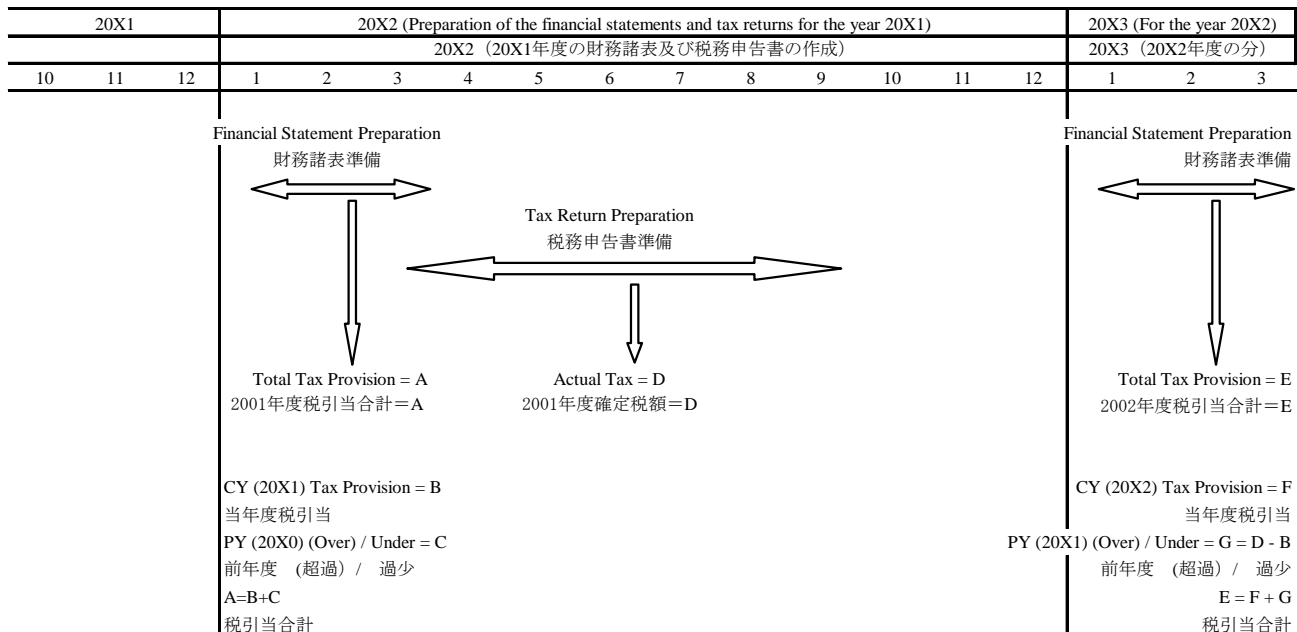


税引当 (Tax Provision)

税引当 (Tax Provision) とは、財務諸表上の当年度の法人税額及び次年度以降の繰延税金を計算し、税関連の決算仕訳を準備する作業のことを言う。確定していない税額を、財務諸表上計上することから、税未払処理 (Tax Accrual) とも考えられるが、正確な捉え方ではない。税引当の主要な目的は、財務諸表上の税引後利益を得ることである。その意味で、法人税額と繰延税金資産あるいは負債などの貸借対照表科目が会計年度に適正に見積もらなければならない。ここでいう「適正」とは、税務申告書上の当年度の申告税額と税引当時の見積もり税額との差異が、大きくかけ離れることなく妥当性があるという意味である。つまり、申告書作成提出の時期が延長申請によって、半年程度遅れるため、税額が確定できないというところから、この引当という作業が必要となってくるのである。よって、WP は、申告書作成のためのものではなく、財務諸表作成のためのものとなる。もちろん、確定税額を財務諸表に反映させるべく、申告書自体を同時に作成することもできなくはないが、企業の税務部門あるいは会計事務所等申告書作成代行業者に多大な業務負担をかけることになってしまうため、ケースとしては多くない。また、監査や検証を会計事務所等に依頼している企業の場合は、本来、税引当を企業側で準備し、監査や検証の対象として、監査人に提出する必要がある。(注：実際には、監査法人が代行しているケースも少なくない)

下表では概略的に財務諸表と税務申告書作成時期のずれを示すと共に、当年度分税引当額がどのように計算されるかについて、その内訳と共に示している。(注：暦年を会計年度としている企業の例)



20X1 年が終了し、20X2 年に入ると同時に、20X1 年度の財務諸表作成準備となり、その時期が税引当の作業時期となる。この時期には、20X1 年度の税引前利益と税務上加減算項目を計算するためのデータが既にあるため、20X1 年度の税引当額 B を求めることができる。しかし、20X1 年中にはその前年度 20X0 年度の確定税額と 20X0 年度の税引当との差額

(Over/Under) が発生しているはずで、その超過または過少額 C を加えた金額が 20X1 年度の当年度総引当額 (A=B+C) となる。総引当額とは、最終決算時に費用計上する税額で、前年度に超過払いの税額がある場合は、計算された当年度税額より少ない額の費用計上となり、過少払いの税額がある場合は、当年度税額より多い費用計上となる。

20X2 年度も同じように、総引当額 E は 20X2 年度の当年度引当額 F と前年度 20X1 年度の超過/過少額 G を足した金額、即ち E=F+G となる。この超過/過少額 G は、20X2 年中に確定する 20X1 年度確定税額 D と 20X1 年度当年度税引当額 B との差額となる。